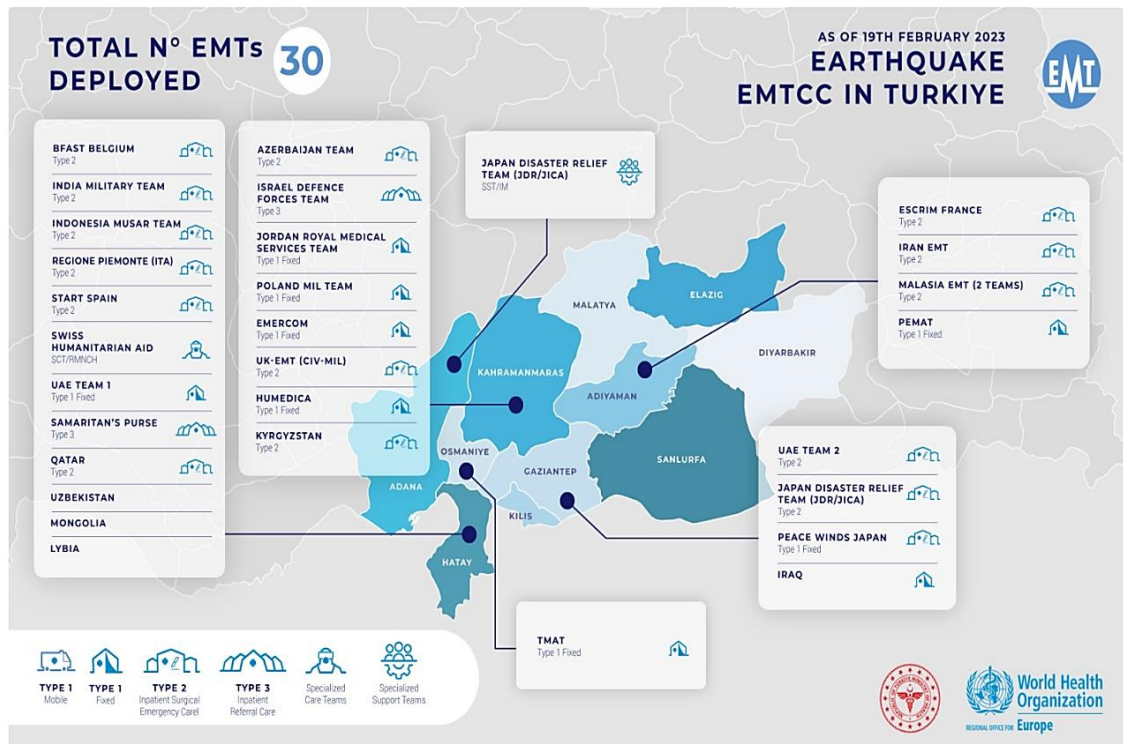


トルコ・シリア大地震における JDR (国際緊急援助隊) による災害支援

災害対策部

トルコ共和国の南東部カフラマンマラシュ県付近を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生、その後の余震も続き、2023年3月1日現在、トルコ共和国で4万4218人、隣国シリアで5914人と、合わせて5万人以上の死亡が確認されており、負傷者は119,450人に上り、死傷者を含む多数の被災者と甚大な物的被害が出ています。倒壊した建物や倒壊のおそれがある建物は、少なくとも17万3000棟に上っていると報告されています。(トルコ内務省災害緊急事態対策庁「AFAD」による報告)

このような国外における緊急事態に備えて日本では、世界保健機構(WHO)により認定されたJICAが統括している国際緊急援助隊(JDR)があります。主に救助・捜索チーム、医療チーム、感染症対策チーム、建築関連の専門家チーム等で構成されています。3月1日現在、救助・捜索チームとともに理学療法士(医療調整員)を含む医療チームも第4陣まで派遣されています。現地でフィールドクリニックを開設し、被害状況やニーズを踏まえた医療支援活動を展開しています。



*Update of EMT status as of 19th Feb, 2023

図1 トルコ南東部で展開されている医療チーム(EMT)の詳細(2023年2月19日時点)

Country	Number of EMT Teams Deployed	Health Workforce Deployed
Azerbaijan	1	31
Belgium	1	100
France	1	90
Germany	1	7
India	1	17
Indonesia	1	88
Iran	1	To be provided
Israel	1	140
Italy	1	75
Japan	5	90
Jordan	1	108
Kyrgyzstan	1	7
Libya	1	9
Malaysia	1	To be provided
Mongolia	1	10
Poland	1	52
Philippines	1	30
Qatar	1	To be provided
Russia	1	14
Spain & Switzerland	1	82
Switzerland	1	5
UAE	2	60
United Kingdom	1	80
United States	1	51
Uzbekistan	1	50
25	30	1,189

*Update of EMT status as of 19th Feb, 2023

図2 EMTCC パートナーシップ(2023年2月19日時点)

世界各国から医療チーム(EMT)が派遣されています。

※EMTCC(医療チーム調整センター)

【引用元】WHO Europe

<https://www.who.int/europe/emergencies/situations/turkiye-and-syria-earthquakes>

また今回の大地震では、多くの学校も被災し、学校に通えなくなった子どもの数が400万人に上るとの見通しも示されており、そのうち約35万人はシリア難民の子どもたちだとされています。多くの子どもたちに、避難生活が長引く中でうつ病やPTSD(心的外傷後ストレス障害)を発症する懸念があります。トルコ政府は「学習は、子どもたちが日常の感覚を取り戻し、立ち直るために大切である」とし、生活に必要な支援に加えて、被災地に仮設の学習スペースを設けるなど、被災した子どもたちの教育面や心理面でのサポートを強化していく方針を示しています。今後も息の長い支援、そして要配慮者と位置付けられる乳幼児や子ども、ジェンダーにも配慮した支援が求められています。

国際的な動向として、国外における災害に対して理学療法士によるリハビリテーション支援が求められており、人道支援の一端を担うことができる役割があります。災害対策部では、このような国際的な情報も発信していければと考えています。本会災害対策事業への参加協力もお待ちしております。